

IV-64

東北の地域づくりと社会資本整備の方向性について

建設省 東北地建 企画部 特別会員 ○福田 修

特別会員 角湯 克典

1. はじめに

21 世紀を目前に、少子・高齢化や経済社会のグローバル化、温暖化等の地球環境問題が顕在化するなどの潮流の中で、東北の現状は、大きなポテンシャルを有しながら、十分に活用していない、過疎化・高齢化の進展による地域活力の低下等、様々な課題を抱えている。さらに、それぞれの地域が施設をフルセットで整備したり、限られた需要を互いに奪い合う等の状況が今なお続けられている。このような状況では、地球時代において今後さらに激化する地域間競争に勝ち残れず、また、豊かな自然を次代や世界と共有する資産として引き継ぐ役割を果たすことができない。そこで今こそ、東北は自地域内にある価値の再発見に目を向け、地域全体が一体となり「日本の中の東北」「世界の中の東北」という視点で何をすべきか考えるとともに、東北を四季豊かな生き甲斐の大地として自らが誇れる地域を蘇生させ、次代に繋げていくために、参加と連携による地域づくりを進めていく必要がある。本報告は、広域的な地域づくりを支援する国の行政機関である東北地方建設局として、社会潮流の変化や新たに示された「全国総合開発計画」等の上位計画の基本理念に対応し、地域内の壁を払拭して東北が一体となり取り組むべき 21 世紀（目標年次 2010 ～ 2015 年）の地域づくりの視点と社会資本整備のあり方を地域に向け提唱するものである。

2. 東北の現状と地域づくりの基本方針

図-1 東北の現状と地域づくりの基本方針

新たな時代における豊かな東北の将来像を実現するためには、東北内におけるポテンシャルや社会潮流を踏まえつつ、様々な要因で起こりうる危機の状況からの転換を図る必要がある。

しかしながら、これまでの東北では、それぞれの地域が同様の施設をフルセットで整備したり、地域内において限られた需要の分配を展開していること、また、地域内の機能分担や相互依存関係において希薄部分（図-2 参照）が見受けられる、地域間競争においてスケールメリットを活かすことができなかった。

そこで、これらを打開するために、東北を一つのブロックとして捉えた国土づくり・地域づくりの基本方針を「参加と連携」をベースとして設定する。

3. 東北の目指すべき将来像

東北における国土づくり・地域づくりの基本方針を踏まえ、東北の特徴や課題、ポテンシャルいわゆる【東北らしさ】を発揮すること、及び 21 世紀初頭に向けて、今日の東北を取り巻く潮流、危機感等に対応していく【時代の要請】の 2 つの視点で東北の目指すべき将来像をとらえる。

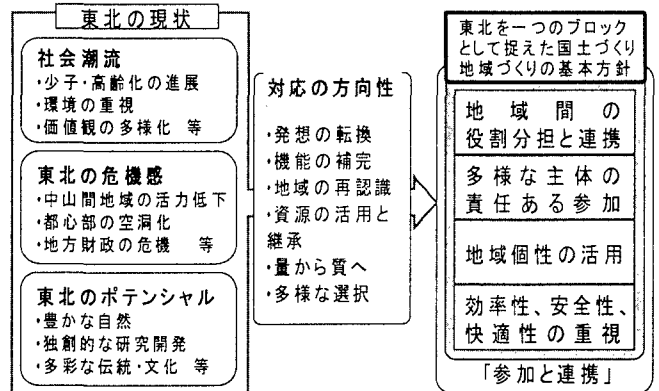
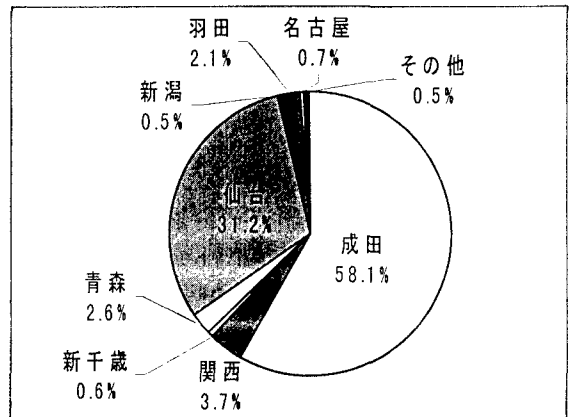


図-2 東北居住者の出国空港構成



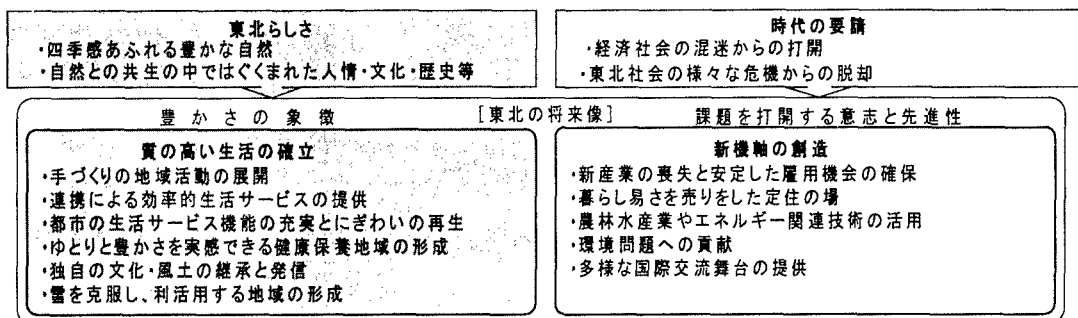


図-3 東北の目指すべき将来像

4. 東北の新たな地域づくりと社会資本整備の方向性

東北の将来像を実現するための戦略として、基盤整備等による新たな地域構造の形成と参加主体の自主性と連携による地域づくりの実践を推進する必要がある。

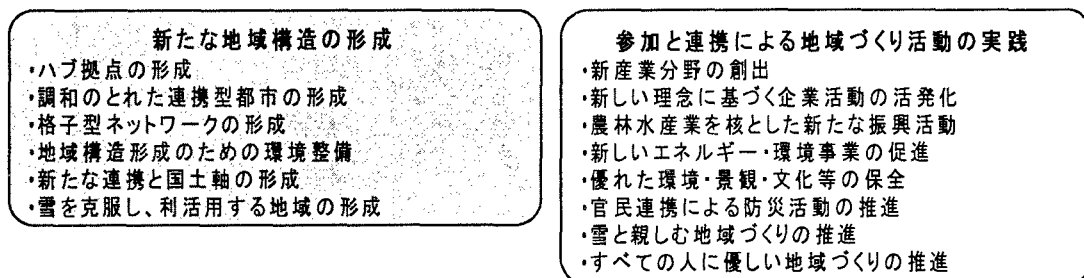


図-4 東北の将来像実現のための戦略

また、これらの戦略を推進していく上で、豊かさの向上に資する社会生活基盤や活力ある経済発展基盤、安心安全のための国土保全基盤等の社会資本整備は、その支援のために重要な役割を果たす。今後の社会資本整備の推進においては、地域の多様な目的に対応するとともに、ユーザーの視点とニーズに即応した整備を進めるとともに、既存のストックの有効活用を図るとともに、多様な主体と連携を図りながら展開する、新たな事業やプロジェクトを提案する。

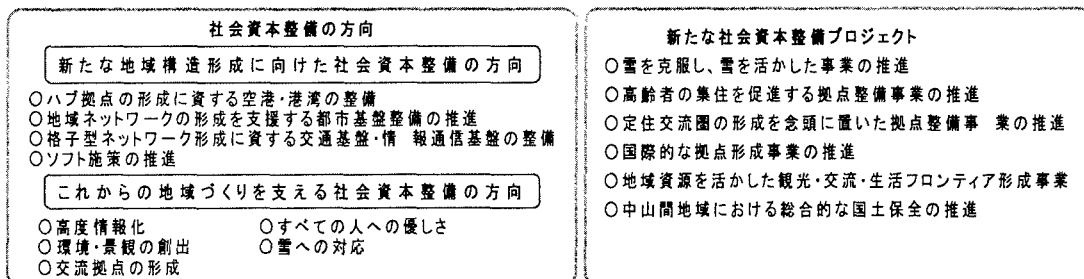


図-5 東北の将来像実現に向けた社会資本整備

5. 今後の課題

東北の将来像の実現に向けて、今後の国土づくり・地域づくりは、住民、企業、行政（自治体、国）等の多様な主体が責任ある参加と適切な役割分担による連携を図りながら、推進することが重要である。

今後はその実現に向け、今回示した新たな地域づくりと社会資本整備の方向性を広く地域に提唱し、本計画の推進における課題を解決すべく地域づくりの支援を展開する。

